

平成 29 年度第 3 回図書館協議会会議録

【日時】 平成 30 年 2 月 24 日（土）午前 10 時 00 分～12 時 05 分

【場所】 キックス 3 階 特別会議室

【会議次第】

1. 開会
2. 基本的運営方針の改定について②（検討）
3. 図書館事業評価結果について（自己評価説明、図書館協議会による評価）
4. 平成 30 年度図書館予算要望の概要について（説明）
5. その他
6. 閉会

【出席者】

（委員）佐藤敏江会長、今木秀和副会長、
浅尾千草委員、荒俣洋子委員、小山克年委員、松本裕史委員、
三浦昭子委員、溝端秀幸委員、三根ゆみ委員

（事務局）和田教育長、橋本生涯学習部長
森下館長、有村館長補佐（司会）、山本主幹（記録）

【傍聴者】 0 人

【会議資料】

- ・平成 30 年度第 3 回河内長野市図書館協議会次第
- ・図書館行政の動向
- ・河内長野市立図書館事業評価 平成 29 年度事業分（案）
- ・大阪府内公共図書館奉仕概況
- ・図書館講座のお知らせ（4 講座）

当日配布資料

- ・基本的運営方針の改定について②（検討資料）
- ・平成 30 年度教育委員会予算要望の概要（図書館分）

1. 開会

事務局職員の紹介
教育長挨拶

事務局から出席委員が 9 名であり、河内長野市図書館協議会規則（以下「規則」という）第 3 条第 2 項の規定により本会議が成立したとの報告

会長挨拶

(事務局)

それでは、この後の議事の進行を会長にお願いいたします。

2. 基本的運営方針の改定について②

(会長)

それでは次第2の基本的運営方針の改定について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

(会長)

それでは、事務局の説明が終わりましたので、ご質問、ご意見等ありましたら、お願いします。例えば、こういうものが欠けているんじゃないかとか、こういう要素も入れたらいいんじゃないかという提案も含めていかがでしょうか。

(委員)

感想になるかもしれませんが、私は子どもの関係の活動をしているので、おはなし会のことなんですが、29年度はおはなし会を91回もされたということと、参加人数も増えているということ、すごく素晴らしいと評価したいと思います。

以前に、おはなし会の曜日の変更や、いろんな曜日であればいいのではないかと提案させていただきましたが、最近思うのですが、3歳までの1段階と、その後幼稚園に入るので3歳以降の2段階で考えないといけないと思います。対象が3歳までのおはなし会に来られるお母さんのニーズというのは、子どもさんに本を読んでもあげたいということもあると思うんですが、お母さん同士の友達作りであったり、子どもの成長段階についての悩みの相談であったりするように思います。おはなし会の前後の時間にお母さん同士でお話しされたり、おはなし会が終わってからその場所に残ってコミュニケーションを取るような場面があるのでしょうか。グループ室があるようですが、そこに移動して話したりということはあるのでしょうか。やはり、図書館は静かにしないといけないと思っているので、お母さん同士の雑談の声が他のスペースに流れると迷惑だと思うので、そういうところを図書館ではどう考えておられますか。

それから、今の前期高齢者が後期高齢者になっていくこれからの10年間で勝負というお話がありました。高齢者に対するサービスを考えるのも重要だと思いますが、元気な高齢者の中にはボランティアに参加したいと思っておられる方もいると思います。ボランティアフェスティバルでも60代・70代の方が活躍されています

ので、図書館でも、そういう方々の活躍の場があればと思います。貸出は機械（自動貸出機）でやるとしても、人とのコミュニケーションというところで、本を探している時は図書館職員に聞きますが、やはり職員の人手不足もあると思います。そこで先ほどのおはなし会の時であれば、終わった後にエプロンを着けたおばさんが声をかけてあげるだけでも、お母さん達はここに来てよかったと思えるのではないかなと考えました。

(会長)

ブックスタートをもっと輪を広げて、親子の交流もありますが親同士の交流に持っていけないかということですね。文庫などでは、ベビーカーで親子が来て、子どもというよりも親同士がそこで話をしていくと聞きました。やはり必要とされている部分かなと思います。高齢者についても60代ぐらいですと、社会に多少貢献したいという思いを持っていると思いますので、そのあたりをうまく結び付けられたらいいと思います。

ご質問の回答とともに、今後の交流の場というところで、今おっしゃったお話をどのように足していけるかということかと思うんですけども。

(事務局)

おはなし会に関して言いますと、今、水曜日のおはなし会に関しておっしゃっていただいたのですが、水曜日のおはなし会は2、3歳のお子さんと保護者の回も4歳以上の回も、おはなしのへやを閉め切って、おはなしの世界に集中して楽しんでもらえるような形で行っています。そのため現在は、交流の場という風にはしておりません。

毎月第3木曜日に赤ちゃんタイムを、1歳のお子さんと保護者の回、2歳のお子さんと保護者の回の2回行っています。その時は、おはなしのへやを閉めずに自由に出入りできるようにしています。そちらの方は、保護者が友達同士と一緒に参加されたりしていますし、始まる前や終わった後にその場所でおしゃべりをしたりできるようにしています。また、おはなしのへやのすぐ前が赤ちゃん絵本のコーナーになっていて、終わってから会話をしながら本を選んだりされていますし、児童担当の司書が必ずいて、本選びの相談にも乗っています。赤ちゃんタイムについては、お母さん達の交流の場にもなっていると思います。子どものコーナーは図書館の一番端ですので、そのままおはなしのへやで交流していただいて、その時間帯は館内利用者のご理解とご協力をいただけるよう放送を入れています。今のところ苦情はありません。

高齢者の方に、図書館に対して貢献いただけないかという点ですが、読み聞かせボランティアの養成講座を毎年行っておりまして、そこに興味を示して応募してきてくださる方は、60代70代もたくさんおられます。高齢者の活躍の場という意味でもうまく機能しているのではと思っています。

グループ室はヤングコーナーにありまして、中高生がグループ学習できるような部屋になっているんですけども、成人の方が利用されてももちろん結構です。午後 5 時以降は予約制にしており、グループの会合などに使っていただいたらと考えています。グループ室をより活用していこうというところもあって、現在は認知症カフェを行っています

高齢者の活躍の場というところでいうと、図書館で活動していただいているボランティアの方々が高齢化してきています。読み聞かせだけでなく、対面朗読や視覚障がい児のためのさわる絵本を制作するボランティアの方々も高齢者が主体的に活動していただいております、図書館としましては、高齢者向けには言っておりませんが、結果的に高齢者が活躍していただける場とはなっております。高齢化というところがあるので、読み聞かせボランティア講座は新規の方の開拓ということで毎年行っておりますし、対面朗読は毎年ではありませんが、構成員が少なくなってくるを見計らいまして講座を行って、ボランティアの発掘に努めております。さわる絵本の会はボランティアフェスティバルなどで作品展をされ、会員の募集をされたりしています。図書館を拠点とした高齢者が活躍する場というものは、今も備えていると考えています。

それから、コミュニケーションの場ですが、グループ室は狭いので、やはりそういった場を求めるとするならば、予算的なものが必要になってくると考えています。交流が持てるような場所を図書館の中で求めるならば、1階のAVコーナーの改修によって、いろいろな催し物ができたり、囲碁・将棋・オセロ等で知らない人同士が対戦して交流できたり、図書館をいろんな意味で利用していただけるような方法も考えられると思っております。

(会長)

ボランティアをお願いしたいことはあると思っておりますけれど、それをどうまとめていくかという図書館側の能力が問われるところだと思います。図書館の書架の本をきれいに揃えるとか、本来あるべき場所に本がないというのは致命的なことです。地味な仕事ですけど、そういう事をしていただけたらとか、うまく何らかのことで関わっていただけたらいいのかなと思います。

他に、改定に向けて考えた方がよいと思われることがありますか。

(委員)

社会教育もいろいろ変わってきたということで、図書館のあり方というのも結構難しくなってきたのかなと思います。今までの枠の中で考えるのではなく、社会全体の中で考えていくことをしないと、なかなかまとまりがつかなくなるのかなと思います。私は社会福祉協議会に関係しているのですが、地域の中でも同じで、担い手が少なくなってきた、たとえば婦人会の活動などもどう続けていくのかということも結構大きな課題です。そんな中でいくと、何をどうしていくのかを、どこか

がコントロールしていかないと、こっちではこんなことをやっている、あっちではあんなことをやっているとなって、トータルで見たら重なっている部分があります。人も、市がやっている組織でいくと、同じ人がいろんな活動に関わっておられて、トータル的に見てみると活動の総数は多いんですが、人の数で考えると少ない。今、関わっている人達がいなくなった後、地域がどうなるのかということは大きなことです。7年後、団塊の世代がすべて75歳以上になった時にどうするのかというのは、どことも大きな問題だと思います。元気な高齢者が誰かを支えるという風にしていかないと回っていかないのかなと思います。

図書館としてもアウトリーチ的な取組が必要かと思います。図書館だけでやるのではなく、たとえば地域の子育てサロンに出向いて行って、ちょっときっかけづくりをしてあげるとかいうこともいいのかなと思います。資料を見ていて、図書館だけで考えていても、なかなか前にすすまないのかなという感想です。

(会長)

関心層をどう取り込むかですが、かといって個人で動くとは不審者と思われかねないので、そこに図書館が関わったり、いろいろな機関が関わると不審者ではなくなるというか。ちょっとやりたいと思っているけれど、どっぷりはやれないという人に第一歩目をどう踏みだしてもらいかみたいな、そういう仕掛けがうまくできるといいですね。

(委員)

ボランティアを募集される時に、講座があつてというのが敷居が高いんです。私も図書館に行った時に、「この本おもしろいよね。」とか「どんなの読んでる？」とか声をかけたりしたいなと思うんですけど、さっき不審者とおっしゃいましたが、そういうところが気になって。やはり図書館のボランティアですという感じで名札があつたりエプロンを着けていたりとかして、おはなし会の日ではなくても、その人が来られる時に、気楽にできるのであれば、行ってみようと思う人も増えると思うんですが。

(会長)

図書館の、雑務ではないですが普段やりたいのにやれないところをやっていたとか、逆に職員がやれるように、何かお手伝いいただくとか、うまくその辺がしみ合えばいいなと思います。ボランティアの方に参加していただいて、図書館も助かる、ボランティアの方も地域と関わるといような方法があればいいと思います。

他にありませんか。ないようですので次に移ります。

3. 図書館事業評価結果について

(会長)

次第3の図書館事業評価結果について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

(会長)

それでは、事務局の説明についてご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

(委員)

基本的にはいいと思います。ただ、Bが2か所ありますが、残念なのは相手方がいるBではなしに、自己のBなので何故なのかという疑問です。講座数も研修参加者も、年度当初に調整できなかったのかなと思います。相手がいると達成するのは難しいこともあると思うので、Bということもあると思うんですけども、自らの事なので何故Bになるのか、前回もあったかと思うのですが、そこが気になるどころです。

もうひとつ、7番の自治体の連携は14自治体より伸びることはないんですか。何故かという連携すること自体が目的ではないような気がするんです。連携することによって、一体どんな事業を提供して、それに対してどんな評価になったのかという方が見えてくるものがあるのではないかと思います。連携をしたことによって、何を目標にしたのかという方が指標として、よりわかりやすいと思います。

当初は増やしていくことが目標だったかもしれないですが。

(事務局)

他市の方の河内長野市での登録者数や、河内長野市民で他市の図書館に登録しておられる方の数などもわかりますので、そういった方が指標としてわかりやすいでしょうか。

(委員)

協働して事業をしたとか。

(会長)

数ではなくて、サービスの内容を指標にしてはどうかというご提案だと思います。

(事務局)

現在14自治体ですが、拡大に向けての努力もしております。ただ相手があることですので、なかなか難しいです。こちらの14自治体の連携が少し早かったので、後から連携を組まれたところとも、また連携できたらと思っています。

先ほどご意見でおっしゃられたように、次年度に向けて指標を考えたいと思います。

(副会長)

全体を通して、去年も同じことを言ったと思いますが、A評価それ自体は素晴らしいんですが、自己評価をするひとつの目的は、課題を見つけるということなんです。そういう点でいくと、もう少しきめ細かく工夫しないとAでした、よかったですということでも終わってしまいます。課題を見つけるということも大事なので。職員さんの立場もあって、これが外にでるということで、内部的、外部的両方の配慮をしないといけないと思うんですが、もし業務を本当に改善しようと思うならば、どこかに課題があるはずで、このPDCAを回すことでそれが見つかるのであって、そういう点でちょっと大雑把すぎて、これだけではどこに課題があるかというのは見つからないですね。ですから、毎年少しずつでも前進させるためには、もう少しきめ細かく目標を掲げて、目標を達成するためにはどんな手段があるのかということを考えて、それについてひとつひとつ点検していく。そして課題を見つける。そういう作業を徐々にでいいので緻密に取り組んでいかないと、これだけ毎年やっても、結構でしたということでも終わってしまいますから。PDCAの本来の意義が生きてこないということになると思います。せっかく時間をかけてやるわけですから、課題を見つけるという観点からもう少し工夫していただいたら、本当の意味で一歩ずつでも改善していったら良くなるんじゃないかと思います。

(会長)

全体を網羅しているから難しいのかもしれないですね。網羅しつつ、例えば今年は特にこの一点を細かく見ていこうと、重点の置き方を変えるとか。もうひとつ気を付けないといけないのは、すべてAというのは目標の設定の仕方もあるわけですから、そのところを気を付けないと調査のための調査、評価のための評価みたいになってしまいますので、課題だと思われる部分があるなら、そこを細かくピックアップして見ていくというやり方もあるのではないかと思います。

他にございますか。ないようですので次に移ります。

4. 平成 30 年度図書館予算要望の概要について

(会長)

次第 4 の平成 30 年度図書館予算要望の概要について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

(会長)

事務局の説明について、なにかご意見、ご質問等ありますでしょうか。
ないようですので、次に移ります。

5. その他について

(会長)

次第 5 のその他について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

(会長)

事務局からの説明が終わりましたが、最後に何かご意見等ありますか。
よろしいですか。
そうでしたら、事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

(事務局から今後の予定等について説明)

(会長)

以上を持ちまして、平成 29 年度第 3 回河内長野市図書館協議会を閉会いたします。

以上